

雌阿寒岳の火山活動*

—1999年5月～9月—

Volcanic Activity of Meakandake Volcano — May-September 1999 —

札幌管区气象台
釧路地方气象台

Sapporo District Meteorological Observatory, JMA
Kushiro Local Meteorological Observatory, JMA

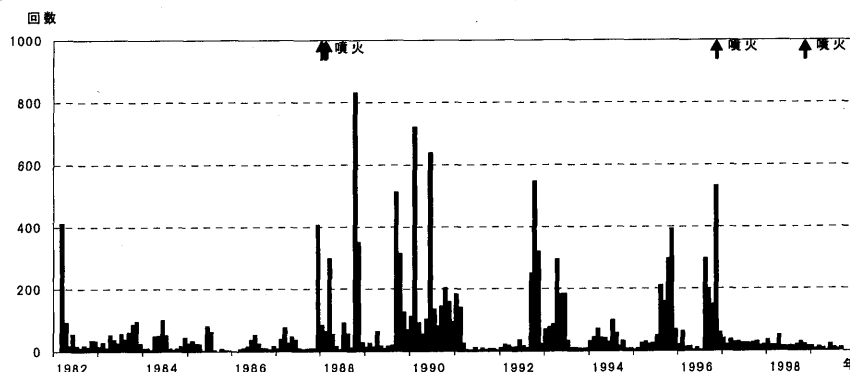
第1図に1982年から1999年9月までの月別地震回数を示す。1996年11月の噴火後、地震回数は少ない状態であり、本期間（1999年5月～9月）も月回数20回程度で推移した。また火山性微動は1998年11月9日の噴火以降観測していない。第2図に同期間の月別最高噴煙高度を示す。ポンマチネシリ火口の噴煙高度は、本期間（1999年5月～9月）、通常は200～400m、高い時には700～900mで推移しており、1996年11月の噴火以降噴煙量はやや多い状態が続いている。また、1999年5月11日以降、高感度カメラによる観測でポンマチネシリ96-1火口付近が夜間明るく見える現象を時々確認したが、7月以降は観測していない。

1999年6月4日～6日に釧路地方气象台が行った現地観測において、ポンマチネシリ96-1火口は、1998年11月の噴火により火口底噴出口の拡大と内壁の一部が欠損しているのを確認した。また、北海道立地質研究所と共同で行った1998年11月噴火の噴出物調査の結果を第3図に示す。噴石は最大で70cm×60cmで、最大到達距離は96-1火口の北西側約300mの地点であった。火山灰や礫は、96-1火口の北北東から東側に分布し、北東側火口原で最大5cmの堆積層を確認した。

第4図に赤外放射温度計で測定したポンマチネシリ火口温度を示す。期間は1987年～1999年10月である。1999年6月4日～6日に行った現地観測で測定した96-1火口の最高温度は651℃で、1998年10月に測定した最高温度393℃より約260℃上昇した。その後、7月6日～8日の観測では671℃、9月9日～10日の観測では667℃、さらに10月4日～6日の観測では696℃を観測し、高温の状態が続いた。また、この図には北海道立地質研究所が8月25日に観測した値（671℃）も含まれている。

地磁気観測所女満別出張所が行った全磁力観測で、ポンマチネシリ火口付近の1998年と1999年の観測値を比較すると1999年の観測値が減少しており、地下での熱消磁の可能性を示す結果として報告されている（本号の報告参照）。

なお、釧路地方气象台は9月13日に、9月9日～10日の観測結果と火山活動状況をお知らせするため、火山観測情報第1号を発表した。

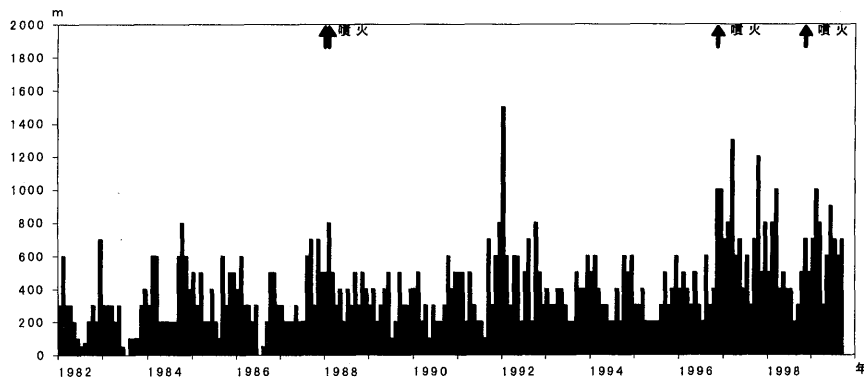


第1図 月別地震回数（1982年1月～1999年9月）↑は噴火を示す。

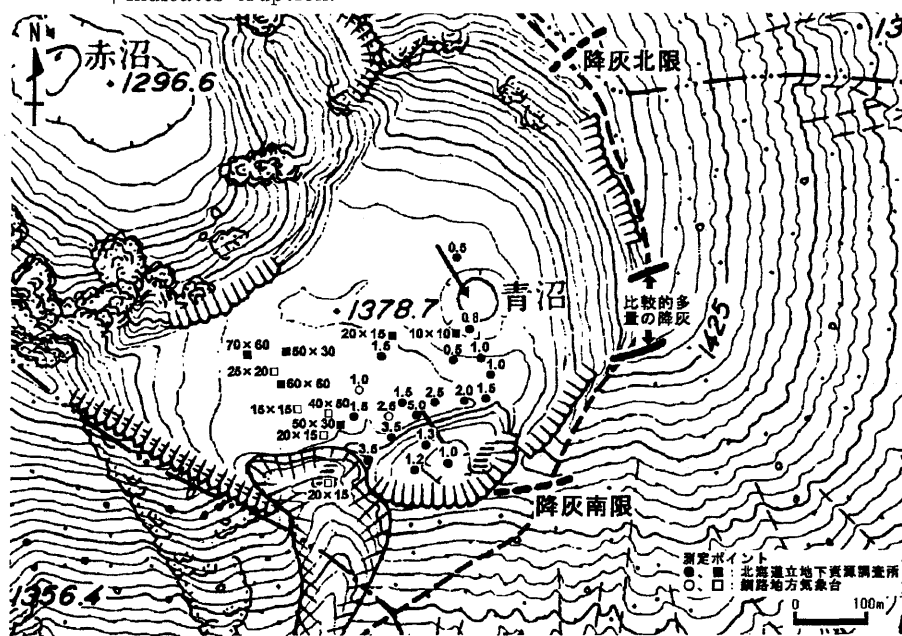
Fig. 1 Monthly frequency of volcanic earthquakes from January 1982 to September 1999.

↑ indicates eruption.

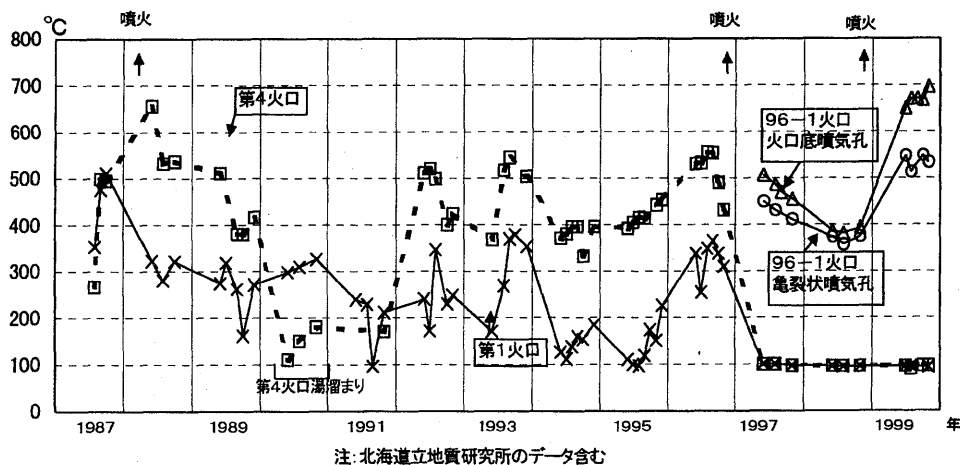
*Received 28 Jan., 2000



第2図 月別最高噴煙高度 (1982年1月~1999年9月) ↑は噴火を示す。
 Fig. 2 Monthly highest volcanic plume from January 1982 to September 1999.
 ↑ indicates eruption.



第3図 1998年11月9日噴火の噴出物分布図 (火口近傍)
 1999年6月、北海道立地質研究所、釧路地方気象台の調査による
 Fig. 3 : Distribution of the eruptive products around Ponmachineshiri crater of 9 Nov. 1999.



第4図 ポンマチネシリ火口温度 (赤外放射温度計による: 1987年~1999年10月)
 Fig. 4 : Temperature variations of Ponmachineshiri crater measured by a portable Infrared Radiation Thermometer (1987-Oct. 1999).